



主張

「時を守り 場を清め 礼を正す」と「地域の一員活動」
↳ 多様な実践活動や体験活動を通し道徳科の授業を生かす

西村 和 晃

「特別の教科 道徳」が全面実施となり、今年で四年目を迎える。既に各学校においては、多くの取組をこなし、成果や課題等が表れ、更なる研修を進めていることだと思われる。文科省が行った令和三年度「道徳教育実施状況調査」によると、道徳教育を推進する上での課題として、「学校の道徳教育の重点や推進すべき方向について教師間での共通理解や連携を図るための機会の確保」を選択した学校が最も多く、二番目に「家庭や地域社会との連携・協力」が挙げられている。これはここ数年の、教師の働き方改革・負担軽減との兼ね合いや新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による体験活動の制限、地域との連携制限等が要因の一角をなしているとも考えられる。

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づいた人格形成の基盤となるものであり、学校の教育活動全体を通しての要として役割を果たすものであり、それだけに、計画的・発展的に指導することが求められている。

本校では、道徳の時間だけでは道徳心は育まれにくいと考え、子供たちが道徳的価値を理解し、これまで学んできたものをより深く考えその自覚を深めるため、学校全体で取り組む「全校道徳」的な取組を推進している。学校全体の教員と子供たちの意思統一や同一



歩調にもつながり、さらに、学校や地域の一員としての自覚をもち、集団生活の中での自分の役割と責任を実感できている。

その一つが、学校スローガン「時を守り 場を清め 礼を正す」である。「時を守り」では、ただ単に時間を守る意識付けだけではなく、時を大切にする意識・一日の生活リズムを整え健康管理を行う等につなげている。「場を清め」では、清掃活動以外でも、よりよい学校生活を送るための環境整備、おもてなしの心、場を読む・空気を読む心の育成等に、「礼を正す」では、挨拶・礼儀の意義だけではなく、思いやりの心・感謝の心や謙虚な姿勢の育成を目指し、全校集会や学年集会では、必ず話の中に入れるようにしている。

もう一つが、「地域の一員活動」である。「中学生ができることを地域で」と言うことで、地域行事の準備や裏方に参加し活動させていただいている。例えば、地域の夏祭りでは、テント張り、椅子並べ、道具の運搬等の準備に参加している。短時間でもよく、椅子を数個運び並べるだけでもよしとしている。ここに参加するだけで、地域の幅広い年齢層の方々の会話や触れ合いが生まれ、「みんなのお陰で助かった」と言う地域の方々からの声や、子供たちの自己有用感の向上につながっている。また、地域行事の有難さを実感できるとともに、地域の伝統と文化を大切にすると郷土を愛する姿勢が育まれてきている。

「人が人を育てる」という言葉がある。今日ICTの波が押し寄せてきているが、人を育てるのは人であり、子供たちが、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うためには、道徳の時間の授業、学校の教育活動全体、家庭・地域を巻き込んだ体験活動・実践活動が大切だと考える。

(全日中副会長・福岡市立三宅中学校長)